

Title	精巢白膜に発生したAdenomatoid tumorの1例
Author(s)	藤本, 雅哉; 難波, 行臣; 古賀, 実; 近藤, 宣幸; 竹山, 政美
Citation	泌尿器科紀要 (2000), 46(5): 345-347
Issue Date	2000-05
URL	http://hdl.handle.net/2433/114274
Right	
Type	Departmental Bulletin Paper
Textversion	publisher

精巣白膜に発生した Adenomatoid tumor の 1 例

大阪中央病院泌尿器科 (部長 : 竹山政美)
藤本 雅哉, 難波 行臣, 古賀 実
近藤 宣幸*, 竹山 政美

ADENOMATOID TUMOR OF THE TUNICA ALBUGINEA:
A CASE REPORT

Masaya FUJIMOTO, Yukiomi NANBA, Minoru KOGA,
Nobuyuki KONDOH and Masami TAKEYAMA
From the Department of Urology, Osaka Central Hospital

A case of male adenomatoid tumor of tunica albuginea of the testis is reported. A 45-year-old man referred to our hospital because of intrascrotal mass on the right side. The mass increased in size for eight months. Then we excised the tumor, and spared the right testis. The tumor was arising from the tunica albuginea of the testis with a pedicle. The histological diagnosis was adenomatoid tumor. Adenomatoid tumor is a rare benign tumor. A total of 97 cases of adenomatoid tumor of epididymis have been reported in males, but only 23 cases of adenomatoid tumor of the testis have been reported in Japan. Herein, 24 cases of adenomatoid tumor of testis including our case are discussed and reviewed.

(Acta Urol. Jpn. 46 : 345-347, 2000)

Key words: Adenomatoid tumor, Tunica albuginea of the testis

緒 言

Adenomatoid tumor は, 男女の生殖器に発生する稀な良性腫瘍である。今回, われわれは, 精巣白膜より発生した adenomatoid tumor の 1 例を経験したので報告する。

症 例

患者 : 45歳, 男性

既往歴 : 28歳, 椎間板ヘルニア

家族歴 : 特記すべきことなし

現病歴 : 1998年2月, 右陰嚢内の腫瘍に気付き当科受診。触診上, 4 mm の弾性硬 表面平滑で可動性良好の腫瘍を認めた。超音波上, 腫瘍は精巣外に存在し, 精巣内部には異常所見を認めなかったため, 精巣由来の悪性腫瘍の可能性は低いと考え, この時点では経過観察とした。同年10月26日, 腫瘍増大傾向を認めたため, 良性・悪性の鑑別を兼ねて手術目的で入院した。

入院時現症 : 右陰嚢内に, 約 1 cm の弾性硬 表面平滑・可動性良好の腫瘍を認めた。その他, 理学的所見で特に異常なし。

入院時検査成績 : 末梢血検査で異常を認めず。血液

生化学検査で総ビリルビンが 1.3 mg/dl とやや高値を示した以外に異常なし。尿沈査で異常なし。

入院後経過 : 1998年10月27日, 手術を施行した。右陰嚢内容を脱転させると, 精巣白膜より有茎性に連続している直径約 1 cm の白色・弾性硬・表面平滑の腫瘍を認めた (Fig. 1)。精巣の組織を一部つけて腫瘍摘除術を施行し, 精巣は温存した。切除面に腫瘍は認めなかった。断面は乳白色で均一の構造を示していた。術後経過は良好で, 1998年11月4日に退院した。術後6カ月を経過した現在, 再発などは認めていない。

病理組織所見 : HE 染色で, 不規則に走行する疎な

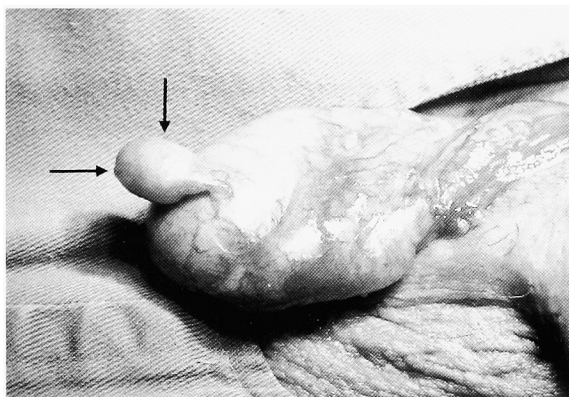


Fig. 1. Gross appearance of adenomatoid tumor arising from tunica albuginea with a pedicle (arrow).

* 現 : 兵庫医科大学泌尿器科学教室

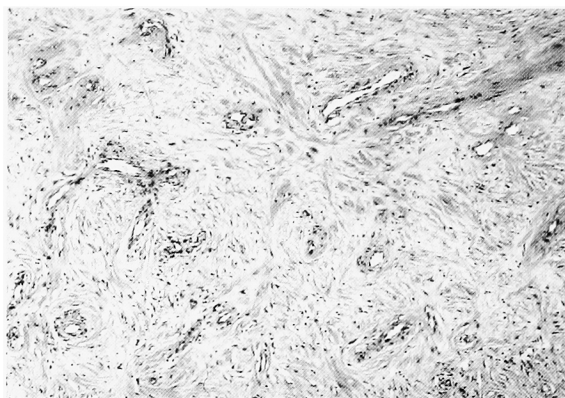


Fig. 2. Histopathologically the tumor was composed of fibrous stroma and epithelial-like cells showing glandular and tubular structures (HE stain $\times 40$).

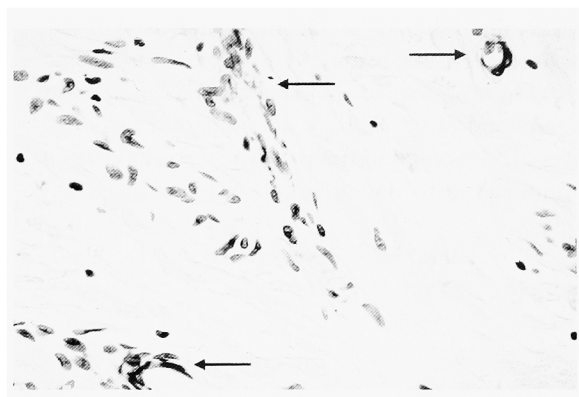


Fig. 3. Immunohistological staining with keratin. Epithelial-like cells are stained with keratin (arrow) ($\times 200$).

膠原線維と、上皮様細胞が腺管様構造を示す像を多数認めた (Fig. 2). 間質には疎な線維芽細胞と少数のリンパ球の浸潤を認めた。ケラチン染色を施行したところ、腺管様構造部分が陽性であった (Fig. 3). 以上より、精巣白膜より発生した adenomatoid tumor と診断した。Adenomatoid tumor は良性腫瘍であるので、高位精巣摘除術など追加治療は施行しなかった。

考 察

Adenomatoid tumor は、男女の生殖器に発生する稀な良性腫瘍で、1949年に Golden と Ash¹⁾らが最初に報告した。上皮由来と思われる腺管様構造を呈するも、その発生起源が明確でないために、adenoma と呼ばずに adenomatoid tumor (腺腫様腫瘍) と呼ばれている。1991年に森山²⁾が男性125例について集計している。その後の報告例と自験例を加えて131例を集計した。発生部位としては精巣上体が圧倒的に多く97例、74%を占めている。逆に、精巣上体腫瘍の約半分以上が adenomatoid tumor である³⁾。次に多いのが自験例の精巣白膜で23例、18%である。女性では、子宮と卵巣に好発する。発生起源としては、中皮細胞由

Table 1. Age distribution

年 齢	症例数
0～9歳	1例
10～19歳	2例
20～29歳	4例
30～39歳	10例
40～49歳	5例
50～59歳	1例
不 明	1例
計	24例

来、ミューラー管由来、中腎遺残組織由来、血管内皮細胞由来などの仮説があり一定していないが、中皮細胞由来が有力である⁴⁾。1991年に有角⁵⁾が、精巣の adenomatoid tumor 22例の集計を行った。その後の報告例³⁾と自験例を加えて24例の集計を行った。術前診断としては精巣腫瘍がもっとも多く10例 (42%) あり、精巣上体炎が4例 (16%)、精巣上体腫瘍が1例 (4%)、その他が3例 (13%)、不明が6例 (25%) であった。左右差は左15例 (63%)、右8例 (33%)、不明1例 (4%) で、やや左に多い傾向がみられた。年齢分布は30代が最も多く10例 (42%) であった (Table 1)。次に多いのが自験例の40代で5例 (21%)、その次に多いのが20代の4例 (17%) であった。この3つの年代で全体の79%を占めており、青壮年に多い疾患であると言える。この傾向は、精巣 adenomatoid tumor だけでなく、adenomatoid tumor 全体でも同様である。治療は外科的治療が行われる。本来、adenomatoid tumor は良性腫瘍で精巣の温存が可能であるが、精巣悪性腫瘍が否定しきれないため、あるいは手技的な問題で精巣摘除術が9例で施行されていた。腫瘍摘除術のみを行った症例が9例、術式不明が6例であった。自験例では、すでに子供が2人おり育児希望はなかったが、cosmetic な理由で腫瘍摘除術のみを行い、精巣を温存した。また、丸茂⁶⁾は、迅速病理組織標本で adenomatoid tumor が示唆されたため、腫瘍摘除術のみで手術を終えている。迅速病理の結果で精巣温存を試みることが有用であろう。

結 語

精巣白膜より発生した adenomatoid tumor の1例を報告した。稀な良性腫瘍で、治療としては可能なかぎり精巣温存を試みるべきである。

本論文の要旨は、第166回日本泌尿器科学会関西地方会にて発表した。

文 献

- 1) Golden A and Ash JE: Adenomatoid tumors of the

- genital tract. *Am J Pathol* **21**: 63-79, 1945
- 2) 森山浩之, 田中繁之, 福重 満, ほか: 陰嚢内結石をともなう副睾丸 adenomatoid tumor の1例. *広島医* **44**: 789-791, 1991
 - 3) 田中繁之, 山本謙仁, 佃 文夫, ほか: 陰嚢内アデノマトイド腫瘍の2例. *西日泌尿* **59**: 28-30, 1997
 - 4) 本城 充, 井上彦八郎, 野々村祝夫, ほか: 副睾丸アデノマトイド腫瘍の1例. *泌尿紀要* **34**: 1829-1831, 1988
 - 5) 有角克久, 山下哲史, 間宮政喜, ほか: 睾丸白膜アデノマトイド腫瘍の1例. *苫小牧病医誌* **5**: 39-41, 1991
 - 6) 丸茂 健, 実川正道, 田崎 寛, ほか: 睾丸に発生した adenomatoid tumor の1例. *日泌尿会誌* **76**: 1425-1427, 1985
- (Received on August 11, 1999)
(Accepted on February 15, 2000)